

# 景気景況調査報告

(第13回)

平成31年 1～3月期 実績

平成31年 4～6月期 見通し

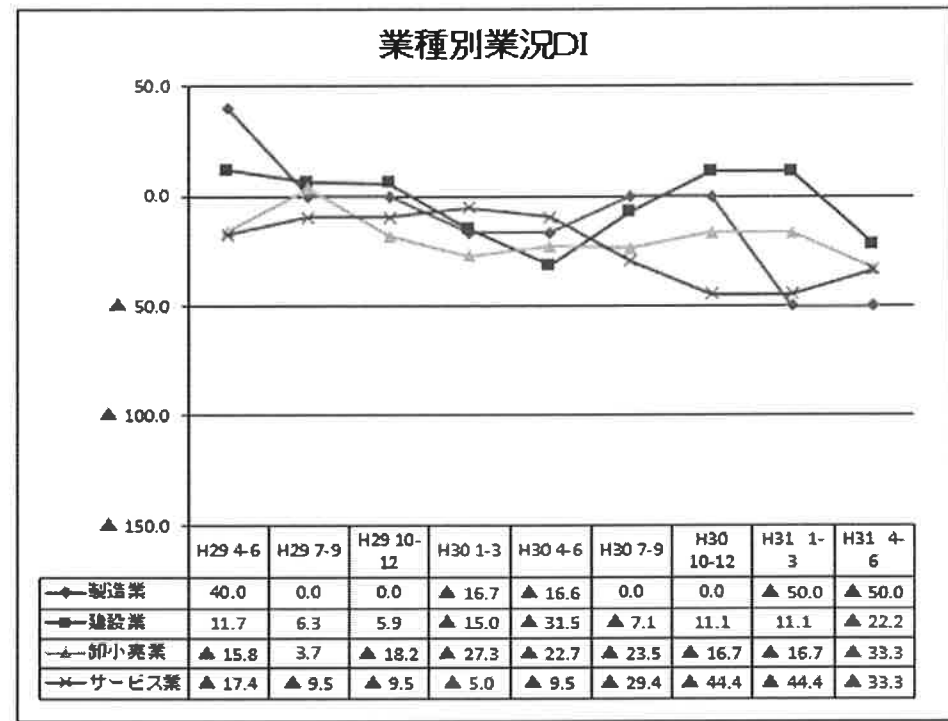
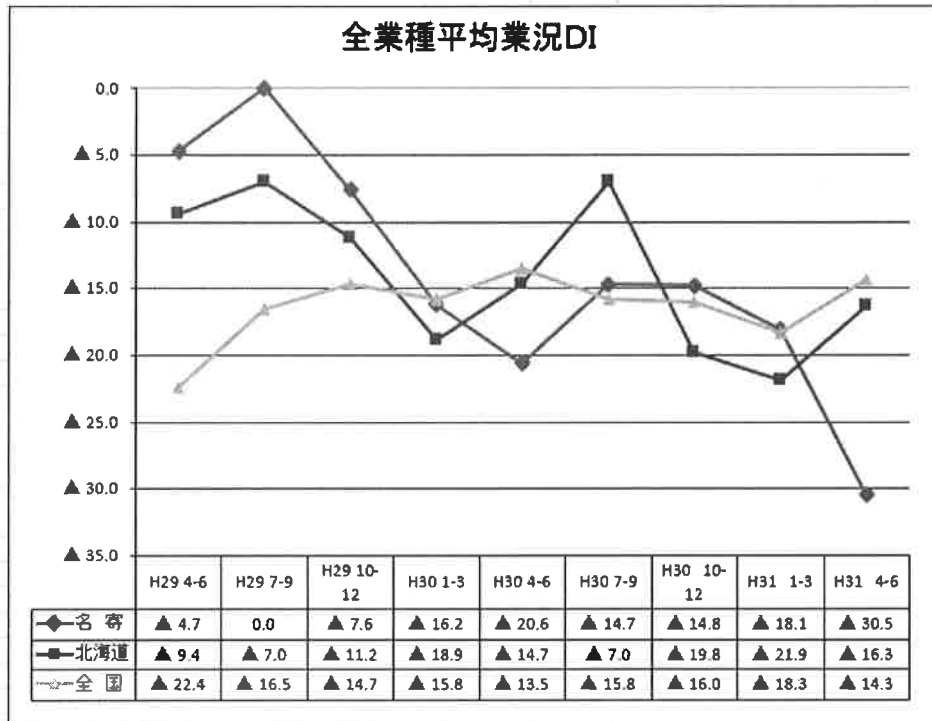
令和元年5月

名寄商工会議所

## I 調査要領

- ①調査対象期間 平成31年1～3月期の実績及び平成31年4～6月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 46社

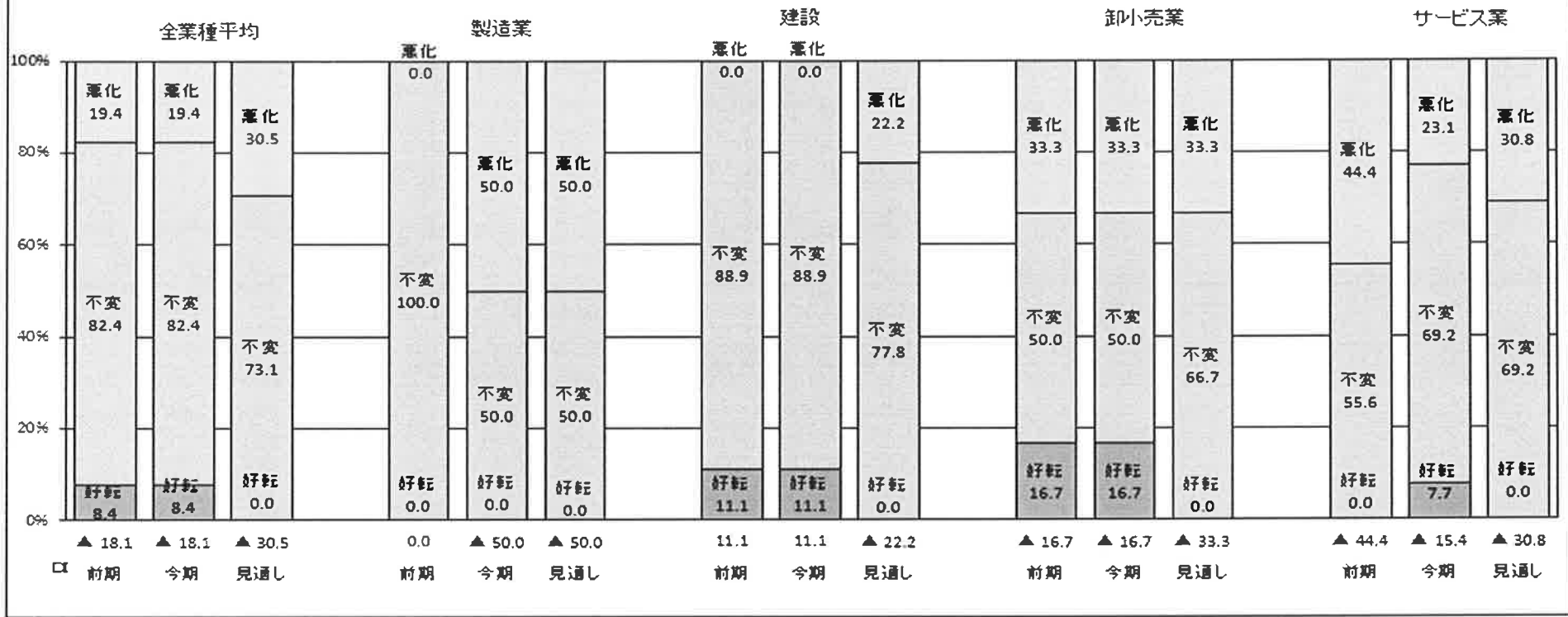
## II 調査結果



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲18.1ポイントと前回調査と比べ▲3.3ポイントマイナスとなっている。製造業が前回0.0→今回▲50.0と大幅にマイナスとなっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期3.8ポイント良いが、見通しでは▲14.2ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期0.2ポイント良いが、見通しでは▲16.2ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・名寄市の見通しが今期よりマイナス幅が拡大する要因としては、規模の縮小、品不足、原材料の上昇と売上増加が見込めないとの回答が多数あり。
- ・業種別では、製造業以外は横ばいとなっており、製造業は▲50.0ポイント縮小する見通し。

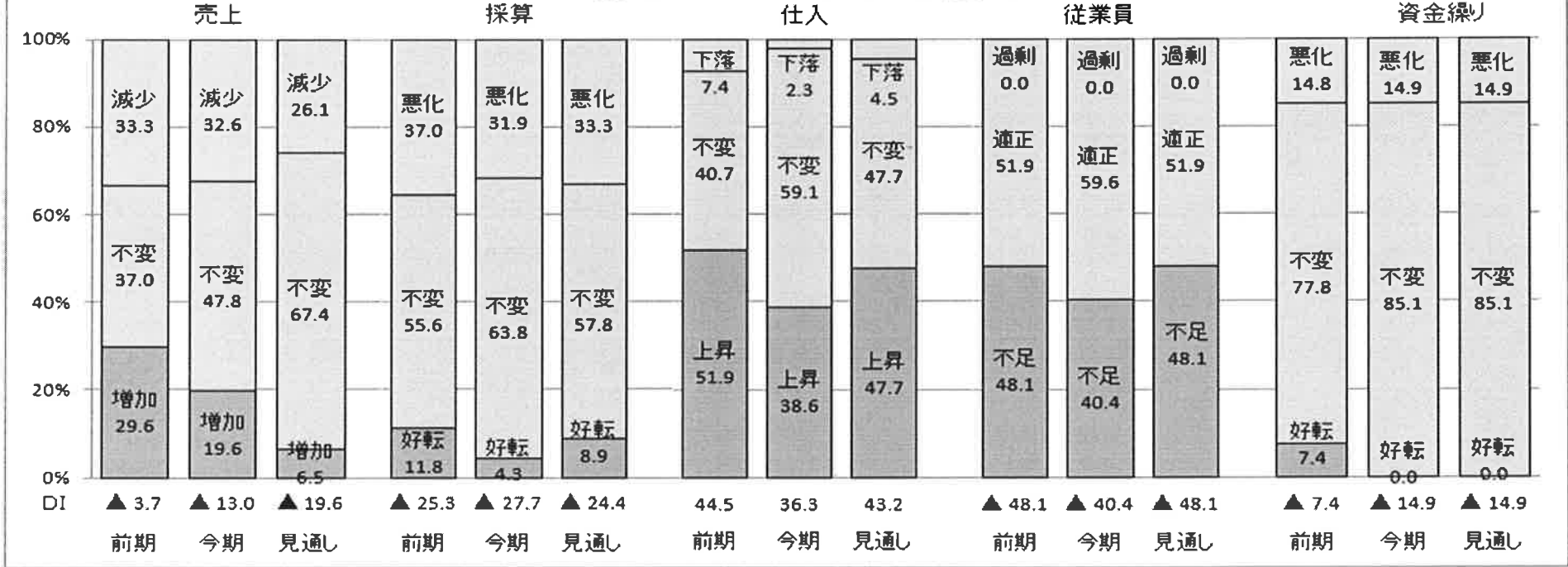
## 業種別業況回答割合



※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期は前期と比べ、「不変」「悪化」が半々となっている。  
見通しでも今期と同様で好転が見込めない状況となっている。
  - 建設業～ 今期は前期と同様となっており、見通しでは「悪化」22.2%増加。物価の上昇、除雪量の減少、公共・民間工事の減少や人手不足により業況が悪化しているとの回答。
  - 卸小売業～ 今期は前期と同様となっており、見通しでは「悪化」は横ばいとなっているが、「好転」回答がないため厳しい状況となっている。
  - サービス業～ 今期は前期と比べ「悪化」21.3%減少。見通しでは「悪化」7.7%増加しており、「好転」回答がないため継続して厳しい状況となっている。
- 全業種平均では、今期は前期と変わらないが、見通しでは「悪化」11.1%増加。「好転」回答もないため景気回復の兆しは不透明である。

## 全業種平均項目別回答割合



**売上 DI** 今期▲13.0ポイントと前期より▲9.3ポイントマイナス幅を拡大。見通しでは▲23.1ポイントマイナス幅となっている。  
 [悪化の要因] ・公共工事の減少、発注減少、人手不足 ・高齢化 ・インターネット化 ・技術者不足 ・除雪量の減少

**採算 DI** 今期▲27.7ポイントと前期より▲2.4ポイントマイナス幅となっている。見通しでは3.3ポイント拡大する見込。  
 [悪化の要因] ・除排雪作業の減少 ・燃料価額の上昇

**仕入 DI** 今期▲36.3ポイントと前期より8.2ポイント増加。見通しでは9.1ポイントと減少傾向となっている。  
 [上昇の要因] ・人件費上昇による値上 ・資材や原材料の高騰 ・品不足

**従業員 DI** 今期▲48.1ポイントと前期よりも7.7ポイントマイナス幅が減少となっているが、見通しでも改善傾向がみられず従業員不足が懸念される。  
 特に建設業による不足の声が多いが、広範な業種において人手不足は深刻な状況となっている。  
 [不足の要因] ・仕事量に対して人数が少ない ・早期離職者の増加 ・高齢化 ・適任者がいない

**資金繰り DI** 今期▲14.9ポイントと前期から7.4ポイント増加。見通しでは今期と変動はないが依然、資金繰りが厳しい状況。